

今年こそ 習慣を打破する

一月のテーマ
自覚



え・たむらかずみ

ド イツの警句に「猫は美しい
王女になっても鼠(ねずみ)
を捕ることをやめない」という言

葉があります。習慣がいつしか生
来の性質のようになることを示し
た言葉ですが、良い習慣を崩すの
は簡単でも、悪い習慣から抜け出
すことは容易ではありません。

S 社長は、ビニールの小袋に入
った醤油やソース、プラスチック
容器に入ったコーヒーのシロップ
などを使い終わった際、ペロッと
なめる癖がありました。

ある日、部下を引き連れ、商談
をしていた時のこと。先方の会社
でアイスコーヒーが出されたので
すが、シロップを思わずペロリと
やったものですから、部下たちは
気恥ずかしい思いをしたそうです。
Y社長は、「イヤ」という言葉か
ら話を始める癖がありました。「イ
ヤ、それはいいでしょう」「イヤ、
そう思います」などと、賛意を示
す時でさえ、否定を表わす「イヤ」
を多用するのです。

その口癖に社員は戸惑い、ある
時など、取引先の相手に「自分の

意見を否定された」と勘違いされ
たこともあったといえます。

日本にも「無くて七癖(くせ)
あつて四十八癖」という諺(こと
わざ)があります。これは、誰で
も何かしらの癖があることを示し
たものです。

癖の原因は、様々な要因が考え
られますが、悪しき癖を改めるた
めには、強い自覚が必要です。「こ
れはよくない、改めよう」と、ハ
ツキリ強く思うことです。

自覚を促し、それを自己革新に
活かすためのヒントとして、第一
に「苦難を活用する」ことが挙げ
られます。先に紹介したY社長は、
取引先とのトラブルが、癖に気が
つききっかけとなりました。

このように、自己革新の第一歩
となる「自覚」は、トラブルや苦
難から得られることが多いよう
です。苦難という「不都合な状況」
は、自分自身に何らかの改善を促
す貴重な信号であると捉えること
ができるでしょう。

第二に「気づく能力を鍛える」
ことです。S社長は部下の困惑し

た態度を察知したからこそ、癖を
改善することができました。

そもそも自分の癖に気づかなか
れば、改めようがありませんし、
自覚も生まれません。苦難を排斥
するものと捉えず、自分に必要な
メッセージだと受け止めた時、自
己革新のための正しい情報を得る
ことができるでしょう。

最後に、第三のポイントとして
あげられるのは「自覚は実行によ
って完結する」ということです。

年頭にあたり、どなたでも「今
年は…」と心に期するところがあ
ったことでしょう。純粹倫理では、
そう思ったその時が、自分を変え
る最も良い時であると捉えます。
その時機を逃さず捉えて、実行に
移していく時、自覚は本当の意味
で実になっていくのです。

怠け心や、面倒がる気持ちを表
われた時こそ、新しい自分に生ま
れ変わるか否かの分かれ道です。
今年一年の決意は、そのスタート
である今月の過ごし方いかんにか
かっていると心得、日々、自己革
新に挑戦したいものです。